

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機 関 名	豊橋技術科学大学	整理番号	R03
プログラム名称	超大規模脳情報を高度に技術するブレイン情報アーキテクトの育成		
プログラム責任者	井上 光輝	プログラム コーディネーター	中内 茂樹

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

[総括評価]

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

[コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、ブレイン情報アーキテクトの育成する人材像や教えるべき科目群等が明らかになりつつあり、着実に進展していると評価できる。脳科学に立脚してエレクトロニクスデバイスやソフトウェアの設計開発が行えるブレイン情報アーキテクトは今後需要が高まるものと考えられるが、修了時にどのような要件を満たせばブレイン情報アーキテクトとして活躍できるのかについて引き続き議論が必要な点も残っており、今後一層の努力が求められる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、浜松医科大学との協働教育、脳科学インターンシップ、企業を巻き込んだ応用脳科学コンソーシアムとの連携、グローバルサマースクール、国内外での実務訓練等の様々な取組により、グローバル人材が着実に育ちつつある。また、企業を志向する学生が多いことや、起業を目指す学生がいることも評価できる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、民間企業、他大学、海外研究機関の研究者からなる複数指導教員体制が構築されており、副指導教員の選び方や研究テーマの設定において、学生の主体性が活かされていることは評価できる。また、海外の指導教員による指導も十分に機能している。

優秀な学生の獲得については、タフで優秀な学生を確保できている。しかしながら、女性や留学生が少ないなど、多様性の確保については課題が残っており、今後一層の努力が求められる。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、十分に練られた学位審査フローが構築されている。サマースクール報告会や実務訓練資格等審査など、適切な時期にチェックポイントが設けられている。また、審査委員の構成にも十分な工夫がなされており評価できる。

事業の定着・発展については、学長の下に実施本部が置かれ、アドバイザリーボードも設置するなど、十分な推進体制が構築されている。また、第3期中期目標・計画に、本プログラムの発展形としての新専攻設置や既存専攻の改組が盛り込まれており、評価できる。